

令和5年度 地域発元気づくり支援金授業総括書

事業名	縄文祭り縄文文化の地域づくり
事業主体	八ヶ岳jomon楽会
(連絡先)	〒391-0100 諏訪郡原村17217-3470四季の森j-6
事業8区分	(8) 地域の元気を生み出す地域づくり視する事業
授業タイプ	ソフト
総事業費	1,196,697円 (内支援 957,000円)

事業内容

令和4年に引き続き2年目の事業である。縄文文化を地域や観光客に体験を通して実感してもらうと同時に諏訪の古墳時代についても理解を広めました。

- 原村「縄文祭り」を6つの体験コーナーを設け実施した。今年度は、ドングリクッキーづくりをコーナーを新たに設け7月8月で4日間開催しました。
- 諏訪の歴史では「諏訪地域の古墳」を中心に、4日間8講座を実施し、「諏訪王国」10年の存在にも触れました。
- 新事業として「縄文音楽祭」を6演奏グループを招いて、夏の夕べを縄文太鼓の演奏とダンス楽しみました。



≪縄文音楽祭≫

事業効果

- チラシを原小学校や近隣の小学校に配布、公共施設に置いたことでチラシを持ち来場者する参加者がいた。ドングリクッキーづくりは大人も大きな関心をもち参加していた。マスコミにも取り上げられNHKのニュースで火起こし体験が放映されました。
- 諏訪学講演会では、諏訪の古墳の講演会を数回行うことで、昨年とは違う聴講者が増え、諏訪郡6市町村をわ中心に述べ約350人加が参加しました。
- 老若男女、約130名が激しい太鼓のリズムに耳を傾け楽しんでいました。子供たちも出演者と一緒に土器太鼓たたき楽しんみ、終演では会場内総立ちで太鼓のリズムに合わせて踊ることができました。

今後の取り組み

2年の継続の「縄文祭り」反省より、開催時期の選定やスタッフやボランティアの確保の課題が残った。今後更に継続していくため、2回の開催で得たノウハウを整理して行く必要があると思います。

「諏訪学講演会」では縄文に限らず広く諏訪地域の文化、歴史を今後も扱っていく。今後は奈良・平安時代の諏訪、諏訪神社についても探究したいと思います。

縄文音楽祭は縄文太鼓に限らず、地域の隠れた音楽バンドをさがし太鼓とのコラボ等も考えていきます。

※自己評価は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 【A】: 予定を上回る講かが得られた
- 【B】 予定した効果がえられた
- 【C】 : 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の課題について、工夫や改善を要する点がある。

【目標・ねらい】

- ①「縄文まつり」で様々な体験等を通し、移住者と観光客・地域住民との交流を図る場とする。また、縄文文化の素晴らしさを伝える。
- ②諏訪地域の文化・歴史を共有することで郷土に誇りを持ち地域連帯感を深める。
- ③若年層が集うイベントを企画し、縄文文化に触れる機会とし、本会への加入を促進する

※自己評価【 B 】

【理由】

- 縄文祭りでは4日間でのべ700人以上の入場者猛暑の影響か八ヶ岳自然文化園の入園者も少なく予想より30%と下回った。(県外70%)
- 諏訪地域の参加者が多かった。会場が遠いせいか参加者が固定化されてきた。講演内容は身近に多くの古墳がある事等、充実していた。
- 縄文音楽祭は盛り上がり、出演者と参加者が一体になることができた。このイベントはA